

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	これからの時代に必要となる様々な資質や能力の育成を目指し、「SSH」「理数教育推進校」「学力向上進学重点校」としての役割を踏まえながら、カリキュラム・マネジメントに取り組む。	①SSH、学力向上進学重点校としてより魅力ある教育課程の検討を重ねるとともに、生徒の自己実現に向けた履修指導を行い、適切に運用する。  ②すべての教科・科目において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を実践し、探究的な学びを充実させる。  ③新たな時代に柔軟に対応し持続可能な社会を創出するために必要な、科学的探究力、創造力、協働力を育む。	①SSH、学力向上進学重点校としてより魅力ある教育課程の検討及び生徒の進路実現のための講座を編成し、時間割を作成する。  ②年間を通した授業研究テーマを設定し、相互授業見学の推進及び公開研究授業の開催により、組織的な授業改善を行う。 ②学習成果発表会を通じて生徒自身が学びの成果を実感し、主体的・対話的な学びを実現する。  ③「理数探究基礎」「理数探究」を核として、小田原市、県西地域の企業等と連携しながら、科学的探究の手法により課題研究を実施する。	①SSH、学力向上進学重点校の目標を達成するための履修指導ができたか。生徒の履修希望の科目に沿った講座を編成し、時間割を作成できたか。 ②「生徒による授業評価」において、課題解決に関する評価項目(3と6)の回答のうち、50%以上が「(項目4)かなり当てはまる」であったか。 ②学習成果発表会の生徒、教員の振り返り及び校外の参加者のアンケートにおいて、主体的な学びに関する項目の内容を分析する。 ③課題研究成果発表会の生徒、教員の振り返り及びポスター等の成果物の内容を分析し、次年度の改善につなげる。	①教務グループと研究開発グループが連携して理数探究を3クラス同時展開とし、生徒の探究活動を支援するために教科バランスに配慮した授業担当者を配置することができた。 ②第1回目「生徒による授業評価」において、評価項目3及び6の「(項目4)かなり当てはまる」の回答はそれぞれ47.8%、43.0%であった。 ③2年次の理数探究「研究報告会」において、理工系大学院生のメンターおよび連携企業の研究者から助言を設ける機会を設定できた。また、3年次の振り返りをまとめ、1年次・2年次へのアドバイスとしてフィードバックする取組を実施できた。	①理数探究の授業展開及び授業担当者の配置が適切であったか、今年度の実施状況を踏まえて検討する必要がある。  ②授業評価の結果については、教科によって達成状況が異なるため、相互授業見学において、評価が高い教科の授業見学を推進し、組織的な授業改善を行う。  ③年度当初に新入生に対して研究活動の発表を行うなど、各年次の研究活動や振り返りを、異年次の取組みへ活かす仕組みが必要である。	①②授業展開の工夫、授業評価の結果について確認できた。探究的な学びを深めるために指導を継続してほしい。  ③外部研究機関との連携を積極的に行っている。地域としても応援したい。人的資源を生かしてほしい。 理数探究の取組みの様子を小田原市内の中学生にも知らせたい。	①理数探究で3クラス同時展開のきめ細かな指導体制を維持した。次年度に向けては、研究開発グループとの連携をさらに深め、文理混合によるクラス編成の導入など、教育課程のさらなる柔軟化と高度化を図る。  ②授業評価の数値目標は未達だが、相互授業見学を推進し、組織的な授業改善を推進の体勢を整えた。  ③課題研究 dayにより異年次交流を実現した。また、ルーブリック評価を見直し、外部への発表基準を共有した。1年次における見直しを持った探究活動が課題である。	①探究活動の発展・充実に向けて、理数探究で文理のバランスに配慮した講座を編成し、きめ細やかな指導体制を実現する。  ②教科会の機能を強化するとともに、他校への授業視察など授業見学の結果を授業改善に有効活用する。  ③1年次からの段階的指導を見直し、異年次の活動を共有できる仕組みを強化する。
2 生徒指導・支援	①学校行事、部活動、委員会活動を更に充実させ、その活動を通じて、人間形成を図り、全人教育を実践する。  ②生徒一人ひとりの個を尊重した支援体制をさらに充実させる。	①学校行事、部活動、委員会活動における課題解決を目指し、課題解決能力やコミュニケーション能力等を育成する。  ②課題を抱える生徒の支援のため、教育相談全体支援会議をより効果的に運営する。  ③専門的な立場からの支援を充実させるため、SC、SSWとの連携をさらに密にし、外部人材を活用したより組織的な支援体制を構築する。	①学校行事や部活動等で生徒に自ら課題を見つけさせ、話し合い等を通じて解決させることで、全人教育につなげる。 ②教育相談全体支援会議を通じて、年次、保健室、推進担当等の情報共有を深め、ケース会議を効果的に開催する。見えていない課題を抱える生徒の支援につなげるよう、サポートドックをより効果的に運用する。 ③SC、SSWとの情報共有の時間を引き続き確保し、SSWのより効果的な活用の仕方を整理し、職員全体で共通理解する。	①課題解決を図りながらより充実した学校行事や部活動等を展開し、生徒が達成感を得られたか、部活動加入率やアンケート結果を向上させたか。 ②教育相談全体支援会議やケース会議を効果的に運営することができたか。サポートドックについて、全体支援会議が主導し、昨年度よりも組織的に取り組むことができたか。 ③SC、SSWとの情報共有の時間を十分に確保することができたか。組織的な支援体制の中でSSWをより効果的に活用することができたか。	①文化祭、体育祭をより安全に実施できるよう、ルールの見直しを継続し、課題を解決しながら生徒が主体的に企画、運営を行うことができた。 ②月1回の定例会議にて、支援が必要となる生徒の情報を共有し、SCやSSWとの連携も含め、チームとして生徒を支援することができた。サポートドックについては、実施の流れや職員の役割を明確化し、実施できた。 ③SC、SSWとの報告・連絡・相談を円滑に行い、それぞれの強みを生かし、生徒を支援することができた。	①後期の行事の企画・運営や、次年度に向けた各行事の規定の見直しに良かった。生徒が主体的に行えるよう、生徒への指導助言を密に行っていく。 ②SCやSSWと協力してサポートドックのアンケート結果をより詳細に分析し、プッシュ型面談を積極的に実施していく。  ③引き続きSC、SSWとの情報共有の時間を十分に確保し、生徒や家庭が必要とする適切な支援につなげていけるようにする。	①文化祭や体育祭ではPTAと生徒会との連携・協力が非常に良かった。生徒が自分の役割を意識して主体的に活動している様子が分かる。夏の暑さ対策、天候への対応準備等、安全に留意した運営を期待する。 ②不登校の時の働きかけが大切。外部の相談機関もある。情報共有を行って生徒本人やその背景にある事情を理解し、適切な対応を行ってほしい。	①学校行事においては、新たな取組みの導入や万が一に備えた代替案の準備など、教員、生徒間のコミュニケーションを密にとりつつ円滑に学校行事を運営した。  ②生徒の情報を組織的に共有し、適切な支援を行うことができた。サポートドックの結果を受け、プッシュ型面談を実施した。  ③SC、SSWと連携し、困難を抱えている生徒を福祉行政につなげ、適切な支援を行うことができた。	①各学校行事後のアンケート結果をもとに、特に熱中症予防の観点からより安全に行事を実施できるよう検討する。 ①校内の清掃活動も生徒が担う部分は責任をもって行わせたい。  ②より丁寧な支援ができるようスクリーニング会議の日程を見直す。  ③必要に応じて外部人材との連絡を綿密に行い、迅速に対応できるようにする。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒の第一希望の進路を実現できるよう、目的意識の強化と学習意欲のさらなる向上を目指し、各種模擬試験等の分析を活用し、自立的なキャリア形成を支援する。	①生徒が高い目標を掲げることができるように、進路実現に向けた組織的な学習支援や進路選択支援体制を整える。  ②次世代のリーダーに求められる社会的・職業的な自立等をめざしたキャリア形成を支援する。	①生徒の学習への取組状況や進路希望情報を教職員で共有し、進路説明会等で保護者とも共有することで、きめ細やかな進路選択支援を行う。 ①補習・講習及び実力試験等の学習支援を通じて実力を伸ばし、難関大学への進学に向けた学力向上を支援する。 ②卒業生や社会人の講話等の取組を通して、生徒の社会的・職業的な自立、より高次なキャリア形成を支援する。	①生徒の学習への取組状況や進路希望情報を職員で共有し、保護者へも効果的に情報発信して、生徒に高い目標設定を掲げさせることができたか。 ①実力試験等の結果分析を活用して生徒の実力をさらに伸ばし、難関大学への進学実績を伸ばすことができたか。出願検討会を開催できたか。 ②生徒がキャリア行事への参加で将来に向けた明確な展望や高い目標を実現する意欲を持つことがつようになったか。	①生徒および保護者へ効果的に進路情報を発信することができ、すべての生徒に具体的な高い目標設定を掲げさせることができた。  ①実力試験等の結果分析を活用した出願検討会を開催し、根拠に基づいた出願指導を推進することができた。 ②キャリア行事に参加したあとの生徒の振り返りからは、将来に向けた高い目標を実現する意欲を持つことができたことを把握することができた。	①掲げた高い目標を貫かせる組織的な指導体制の確立が課題である。また、進路情報の発信についてもより精度の高い情報提供を行う必要がある。 ①実力試験などの結果分析を踏まえた組織的な学習指導体制の確立が課題である。 ②生徒が主体的に自身自身のキャリア形成を行えるような行事を企画運営することが引き続きの課題である。	①地域を代表する進学校として実績を出していくことを期待されている。進路実現に向けて同窓会からの応援も有効に活用してほしい。  ②国公立の希望者が増加していることを確認した。3月末の進路実績を次年度のモチベーションとして活かしてほしい。	①生徒および保護者へ効果的に進路情報を発信することにより、難関大学志望者も前年より30名以上増加することができた。難関大学志望者増加に伴い、実力試験などの結果分析を踏まえた学習指導体制の確立が課題である。 ②キャリア行事に参加することにより生徒自身が将来に向けた高い目標を実現する意欲を持たせることができた。生徒がより主体的に自身のキャリア形成を行えるような行事を企画運営する必要がある。	①実力試験の結果分析および出題傾向を各教科会で共有するとともに、他校への授業視察を推進する。  ②より充実したキャリア行事にするためには学校外との連携が重要であるため同窓会とも講師選定など連携をとっていく。
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域から信頼される学校づくりを進める。	①生徒一人ひとりの幅広い学力の育成のため地域等の教育力活用を推進する。  ②地域に開かれ、地域と共にある学校を目指し、広報活動を充実させ、教育活動に係る情報発信をより積極的に行う。	①地域や行政(市防災安全課)等と連携して防災訓練・研修会等を実施する。地域貢献活動等を計画し、生徒に積極的に参加させる。 ②学校説明会・学校カミングデー・県西地区合同説明会等を通じ、SSH、進学重点校等、本校の魅力・特色を発信する。 ②学校HP更新を頻繁・迅速に行い、教育活動の情報をリアルタイムに発信する。学校案内を改訂する。	①地域の特性を踏まえた防災避難訓練を実施すし、生徒・職員の防災意識を高めることができたか。 ①地域貢献活動を年3回実施できたか。 ②学校説明会・学校カミングデーの開催・県西地区合同説明会等への参加者数を増やすことができたか。 ②学校ホームページの更新を頻繁に行えたか。学校案内を効果的に改訂することができたか。	①防災避難訓練を年2回予定し、第1回避難訓練、防災地区別集会を実施した。 ①地域貢献活動実施地域を検討変更して実施準備している。 ②学校説明会・県西地区合同説明会等で多くの参加者を得た。 ②ホームページは関係部署が直接更新できるようなシステムを構築した成果があり、昨年よりも更新の頻度が増している。	①防災避難訓練で職員間の連携及び生徒主体の防災活動の工夫が求められる。 ①地域貢献活動では清掃地域等の見直しを含め、効果的な実施が求められる。 ②学校説明会でのアンケートを生かし、次回説明会の方法を改善していく。 ②HP更新を速やかに更新できるように、関係部署に促す。HPの中身を見やすい構成にしていく。	①地域貢献活動等には自治体、地域からも協力したい。避難訓練については現実に即した準備が必要。災害時に地域に力を貸す訓練はあるのか。  ②小さなことでも生徒の取組みを地域に紹介してほしい。保護者や地域からの理解を得るために機会あるごとに学校の状況や方策の発信をしてほしい。	①連携を組んで防災避難訓練を実施することができた。第1回4月23日第2回12月24日実施 ②地域貢献活動第3回(2年)は活動地域を見直して実施した。「かながわ校歌祭」に参加し同窓会とも交流を深めた。 ②各説明会で動画やSSHポスターの展示を行い、多くの中学生・保護者の関心を得た。 ②学校HP更新を頻繁かつ迅速に行い、教育活動の情報や方策の発信を発信する。	①第1回の防災地区別集会は有事の際に具体的に対応できると考えているが、さらに現実に即した避難訓練設定の工夫が必要である。  ②地域貢献活動の実施にあたり、雨天の中止ではなく雨天の場合の活動を模索する事が必要である。 ②学校HPはまだ更新・発信しきれていない活動もある。引き続き積極的な情報発信を行っていく。
5	学校管理 学校運営	①地域や外部機関との連携を進め、教職員の専門性の向上を図り、SSH事業をさらに充実させる。  ②教職員一人ひとりの意識を向上させ、業務の組織的対応と事故・不祥事防止を徹底する。	①地域や外部機関と連携し、教職員の専門性を向上させるとともに、SSH事業への参加生徒数を増加させ、科学への興味・関心の向上及び学習への動機づけを高める。  ②不祥事を「自分事」と捉えるよう教職員の意識改革に取り組むとともに、校内マニュアルの活用を徹底させる。「働き方改革」を進め、安心して働きやすい職場環境を作る。	①地域や外部関連機関等と連携し、Odatech、先端科学講座・小田高ScienceLab等の多様なサイエンスプログラムを実践する。  ②マニュアルに基づいた研修会や声掛けを継続して教職員の意識啓発を図るとともに、教職員間の日常的なコミュニケーションを活性化させる。「働き方改革」の観点から、衛生委員会の活用等で具体策を示し、長時間労働を改善する。	①地域や外部機関と連携したサイエンスプログラムに参加した生徒数および振り返りにおいて、前年度よりも高い成果を上げることができたか。探究活動の発表指導や評価が適正に行われたか。  ②職員の不祥事防止意識を向上させ、事故・不祥事ゼロを実現できたか。働き方改革を実行し、具体策を示して「時間外在校時間月45時間超・年間360時間超」0%を達成できたか。	①小田原市役所・連携企業とこれまでの取組を確認し、一層の取組の充実に向けた調整会を実施した。県西地域県政総合センターが主催する「地域の若者を対象とした未来を考えるプロジェクト」に4名が参加した。また、課題研究の授業担当者により評価検討会を実施し、評価の妥当性と信頼性が向上した。 ②働き方改革の手立てとして勤務時間外の電話自動音声対応を導入した。また、衛生委員会においてストレスチェックの結果を精査し、長時間労働の解消策を職員に提示した。	①サイエンスプログラムでの効果を高めるため、地域や外部機関と連携し、1年次は見学会を充実させる。生徒が発案するサイエンスツアーの実施を検討する。 ②不祥事防止に向けて観察と注意喚起を怠らず、安心安全な環境を作る。業務の見える化を進め、労力と時間を意識した改革を継続する。業務アシスタント等の活用を広げる。8月以降の「時間外在校時間月45時間超」の職員割合は14.5%だった。年度末に向けて減じていく。	①模擬投票などで選挙への協力を実践したことを聞いた。様々な情報があふれる社会の中、情報の受け取り方についても教育してほしい。  ②通信システムを使った連絡方法など、保護者も使いやすい。先生方が余裕をもって生徒に向き合っている。働き方改革推進について保護者も協力したい。	①企業・大学等の協力による多様な講座や成果発表会を実施し、外部視点を取り入れた適正な評価を実現した。今後は生徒発案企画の実現や、発表会以外のプログラムへの参加層拡大による動機付け強化が課題である。 ②事故・不祥事が不注意や無意識によっても引き起こされる事例を挙げて注意喚起し、日常の行動を見直す意識を強化し不祥事等の発生を未然に防いでほしい。企画会議を活用してグループ業務の見える化と見直しを進めた。1月以降の「時間外在校時間月45時間超」の職員割合は19%と依然として高く、働き方改革としての課題が残った。	①連携企業や大学院生による指導機会を拡充し、実社会の課題に触れさせることで学習への動機付けを図る。  ②事故・不祥事防止に向けてさらに風通しのいい職場環境づくりを進める。働き方改革については、職員のウェルビーイングを実現する観点から現状を改善する方策を考えていきたい。業務の偏りや集中を解消する方策を業務アシスタント等の活用やICTの利用拡大の方向で進めていきたい。

